

●味噌蔵の置き屋根工法事例

置き屋根工法は二重屋根構造であり、構造材や屋根葺き材、仕上げ面などが多く必要となるが、二重屋根が日射からの断熱効果に大きな役割を果たす伝統工法と言える。屋根面は現代木造住宅における外張り断熱工法の系列ともとれるが、空気層が完全な風洞になっているため、その効果は極めて高い。この工法の課題は、台風などの強風時に妻側からの雨水の侵入防止と工事費の高コスト化にある。事例は保存工事のため復元的工法であるが、現代的工法での応用や対応も取り入れたい。置き屋根下の土蔵部内屋根はアスファルトルーフィングなどで猫束を含め、内屋根全体を覆う必要がある。



手順 → 棧瓦解体前



棧瓦解体、野地板を見る



野垂木の状態



モヤと東の小屋組みの状態



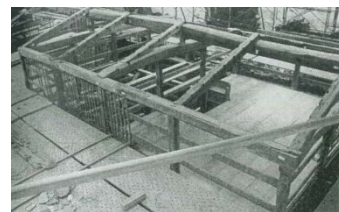
小屋組みを解体



置き屋根解体、野地の上の置土の状態



置土と野地板の解体

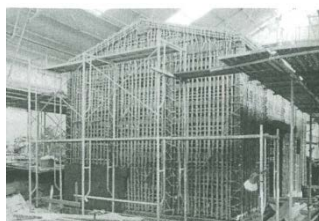


土蔵の上部軸組みの状態

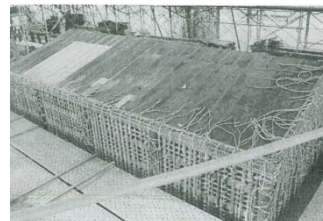
軸組み全体を解体、基礎工事終了後、再組立てに移行する。



軸部の再組立



壁の小舞掻き施工中



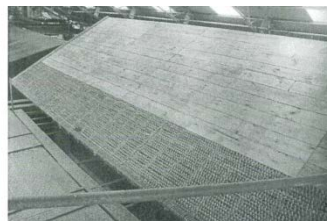
屋根部の置土施工前



置土の施工



置き屋根用の小屋下地組み



野地板と塗籠部縄巻き下地の様子



棧瓦葺完了

●置き屋根各部の継ぎ手と仕口



置き屋根登合掌の棟部の継手



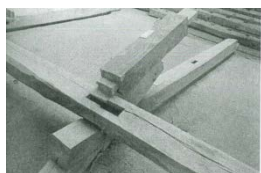
置き屋根登合掌と東踏との仕口



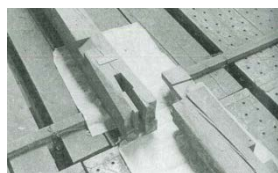
登合掌と桁との仕口



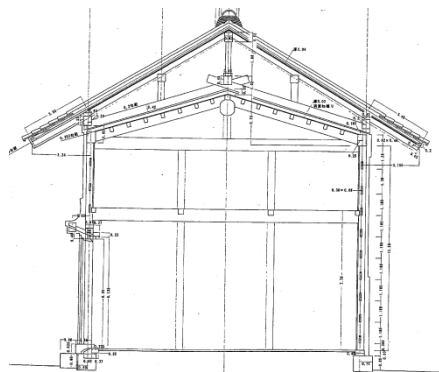
東踏の継手



東踏みと棟東の仕口



置き屋根桁の継手



《重要文化財八代家住宅 味噌蔵》

所在地：山梨県巨摩郡明野村上手

建設年代：明治10年(1877)

屋根形式：切り妻造(置き屋根) 棧瓦葺

平面積：33.270㎡ (間口7.296m 奥行4.560m)

図・写真：「重要文化財八代家住宅長屋門ほか4棟保存修理工事報告書」